

# 水曜通信 12

2018年  
5月

東北学院大学研究ブランディング事業通信  
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

## 第12回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2018年5月16日（水） 18:30-19:00



説教：川島 堅二（本学教授）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：J.S.バッハ「我ら悩みの極みにありて BWV668」

讃美歌：40番「きょうのひとひも」

聖 書：マルコによる福音書1章16～20節

讃美歌：124番「みくにをもみくらをも」

説 教：「生きがいと死にがい」

祈 禱

頌 栄：541番「ちちみこみたまの」

後 奏：E.シュット「夕べの静けさ」

後奏の後、30分の中川郁太郎（本学特任准教授）  
の独唱による讃美を行ないます。

次回第13回水曜礼拝は**6月20日**です。

## 第11回水曜礼拝報告（説教：松本 宣郎、奏楽：小野 なおみ）

2018年4月18日(水) 18:30-19:00

讃 詠：546番「聖なるかな」  
聖 書：コリントの信徒への手紙Ⅰ 15章1～11節  
賛美歌：331番「主にのみ十字架をおわせまつり」  
説 教：「キリストの福音をよりどころとして」  
頌 栄：540番「みめぐみあふるる」



### 【説教要旨】

「生活のよりどころとしている福音」つまりギリシア語では「その上に立っている」と訳せる福音とは、キリストが我々の罪のために死に、そして復活したということです。この上に立つ堅固な信仰によって、死は終わりではなく、我々はたとえ死んでも生きるのです。（松本宣郎）

前 奏：G.ベーム「キリストは死の縄目につながれたり」

後 奏：W.フォークス「アレルヤ」

前奏は「キリストは死の縄目につながれた（が、よみがえりぬ）」というイースターの重要なドイツコラール（ルター派の讃美歌）をテーマとしています。作曲者のベームはバッハと同時代に活躍したドイツのオルガニストです。後奏の「アレルヤ」は讃美歌75番「ものみなござりて」の旋律が元になっています。作曲者のフォークスはイギリスの作曲家・オルガニストです。（小野なおみ）



## 礼拝後の講話「15世紀ビザンティン壁画の〈謙遜〉」



ルカ伝18章に記された「パリサイ人と徴税人」の譬えは、謙遜なる人が義とされるというイエスの言葉を伝える。イエスが語る譬話の絵画化の作例は少ないが、14世紀以降のセルビアには5例あり、左のデチャニ修道院聖堂壁画（1348年）は、左に悔い改めて神殿の遠くから祈る徴税人と、右に誇らしげに祈るパリサイ人が描かれている。右のマナシヤ修道院聖堂の壁画（1418年）では祈りの前後の2場面が描かれている。まさに祈りの前後で、低い徴税人は高くされ、高いパリサイ人は低くなっている。

構図の単純化による謙遜の理念の見事な絵画化である。

（鐸木道剛）



※礼拝とその後の19時00分から20分までの鐸木道剛の講話に41名の市民が参加されました。

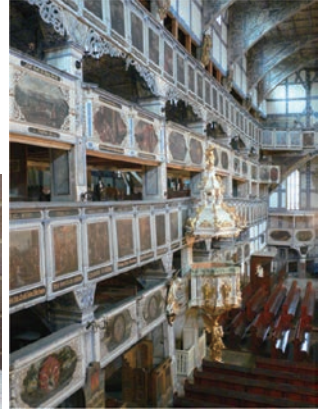
## 5月26日（土曜日）ブランディング事業公開講演会

演 題：UNESCO World Heritage Site “the Churches of Peace in Jawor and Swidnica” in Poland  
ポーランドのユネスコ世界遺産：ルター派教会堂ーヤヴォルとシフィドニツァの平和教会堂  
日 時：平成30年5月26日（土）13：00～15：00  
会 場：押川記念ホール  
講 師：ヴァルデマール・アッフェルト（Waldemar Affelt）  
本学客員教授・グダンスク工科大学上級講師

英語講演・通訳つき

### 【講座概要】

ヤヴォルとシフィドニツァの平和教会は、三十年戦争を終結させた1648年のウェストファリア条約の後、カトリックのハプスブルグ帝国の皇帝によって建設が許可された3つのルター派の教会堂のうち現存するふたつ。ヨーロッパ最大の木造の教会堂として2001年に世界遺産として認定されました。また本講演では同時にポーランドにおける文化財保護の現状、そしてその思想についても考察します。当日は、駐日ポーランド共和国大使館より提供される写真パネルの展示もおこないます。



## 6月～7月の連続研究会（7回シリーズ） ポーランドにおけるユネスコ世界遺産の文化財保護の現状 （使用言語：英語）

場 所：土樋のホーイ記念館1階のコラトリエ・リエゾン  
時 間：13：00～15：00  
対 象：一般、学生、研究者（申込不要・受講無料）

ポーランドから来られたヴァルデマール・アッフェルト氏が、ポーランドの世界遺産についての連続研究会を行ないます。文化財保護に携わってこられたアッフェルト氏が聞き取り易い英語で解説します。気楽な質問な場としますので、市民の参加も大歓迎です。

駐日ポーランド共和国大使館提供の写真パネルも展示します。

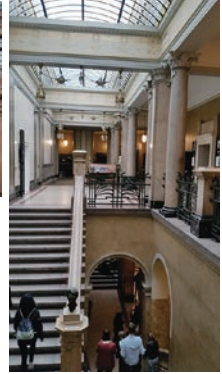
- ① 6月 2日（土） クラクフ歴史地区、ヴィエリチカ岩塩坑
- ② 6月 9日（土） アウシュヴィッツ=ビルケナウ：ナチス・ドイツの強制・絶滅収容所（1940-1945年）  
ワルシャワ歴史地区
- ③ 6月16日（土） ビャウオヴィエジャの森、  
マーウォ・ポルスカとカルパチア地方木造教会群
- ④ 6月23日（土） カルヴァリア・ゼブジトフスカ城、ザモシチ市街
- ⑤ 6月30日（土） マルボルグ城、トルン中世都市
- ⑥ 7月 7日（土） ムスカウアー公園、ムジャコフスキ公園、  
ウツラフ百周年記念ホール
- ⑦ 7月14日（土） タルノフスキエ・グリ銅銀錫鉱山、  
クシエミョンキ先史時代石斧採掘場（候補地）



クシエミョンキ先史時代  
石斧採掘場

## 3月22日～29日 アウクスブルク大学 ハイデルベルク大学 訪問報告

神学研究推進部門では、福音主義研究を進めています。今回、アウクスブルク大学を訪問し、今年の秋に本学にお呼びするペトラ・フォン・ゲミュンデン先生とお会いし、共同研究を進める準備を協議しました。現在、大学間協定を準備しています。アウクスブルクは福音主義教会の最も重要な「アウクスブルク信仰告白」の起源地です。また、ハイデルベルク大学にも足を運び、福音主義研究関連図書进行调查いたしました。この図書館には、改革派教会の信仰問答集である「ハイデルベルク信仰問答」の初版を所蔵するなど、多くの重要な宗教改革関連文献を備えています。写真は大学図書館外観と内部の写真です。(吉田新)



## 2018年度計画：東北学院の宣教の源である ランカスター神学校との交流

新生アメリカ合衆国でペンシルヴェニア州はドイツ系移民が多く、ドイツ改革派の拠点として、マーサーズバーグ (Mercersburg) に1825年に神学校が、そして1836年には神学校の準備のための学部教育機関としてマーシャル大学が創立されました。有名なマーサーズバーグ神学の拠点です。そしてマーシャル大学はランカスターにあったフランクリン大学(現在のフランクリン&マーシャル大学)と合併し、神学校も共にランカスターに移り、ランカスター神学校となりました。



Carol Lytch 師  
(ランカスター神学校校長)

わが東北学院の三校祖のうちのふたりであるホーイ先生とシュネーダー先生はこのランカスター神学校の出身なのです。今回、いわば東北学院の母校であるランカスター神学校との大学間協定が結ばれます。7月中旬にCarol Lytch校長先生が来校され、松本学長と協定文書に署名されます。7月19日には公開講演会も開催します。通訳とコメントは東北学院にゆかりの深いJeffre Mensendiek氏にお願いしました。詳細は東北学院大学のホームページをご覧ください。



Jeffrey Mensendiek 師  
(桜美林大学准教授)

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：  
学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

### 東北学院大学研究ブランディング事業通信 第12号

2018年5月10日発行  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1  
TEL : 022-264-6547  
E-mail : branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp  
URL : <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/>